

中玉トマトにおける1本仕立てと2本仕立ての収穫量の比較及び圃場栽培とハウス栽培の味覚等の比較

メンバー：奥山繁男、河本久美子、鈴木良雄、善家里子、林博志、前川俊文、村田明

- 1.テーマ選定：トマトは家庭菜園で育てたい野菜の定番である。収穫量の増を目的に2本仕立て栽培を試みる。圃場栽培とハウス栽培の違いを検証する。
- 2.品目・品種：大玉・ミニの中間の中玉トマトのフルティカ。甘さ・育てやすさ・食べ応えをそなえている。
- 3.研究方法：脇芽を全てとり主茎1本だけ伸ばす通常行われている1本仕立て栽培。主茎1本と側茎1本の2本の茎をのぼす2本仕立て栽培。圃場は3株x2栽培区直植え。ハウスは3株x2栽培区プラター植え。虫害対策としてバジルを播種する。
- 4.評価項目：収穫数量・重量・味覚・糖度・根の張り具合を検証する。
- 5.生理障害：穴あき茎・不定根の発生。高温・乾燥・肥料過多が原因。
- 6.ハウス内室温：5月から8月まで最高室温40℃を超える。7月は45.2℃。
- 7.研究結果：①2本仕立ての有利性が確認された。収穫個数は圃場1.85倍、ハウス1.19倍。重量は圃場1.51倍、ハウスは1.02倍。②圃場の有利性、収穫個数は1.36倍、重量は2.11倍。③官能検査では圃場の総合点が高く、糖度は2本仕立ての方が高かった。バジルの虫害防止効果は確認できず。

重量別の栽培区個数

重量	圃場1本	圃場2本	ハウス1本	ハウス2本	合計
30g未満	25	70	69	111	275
30g以上50g	44	119	56	42	261
50g以上70g	55	53	5	2	115
70g以上	12	10	0	0	22
合計	136	252	130	155	673

